

新学習指導要領が告示され、学校ではそれぞれ取り組みを模索しておられることと思います。平成10年度にも全国各地で総合的な学習の時間の取り扱いの試行が行われました。そして総合的な学習の時間にユニセフ活動を取り入れた研究実践事例が日本ユニセフ協会にも多数送られてきました。その一例を、概略になりますがご紹介させていただきます。

「総合的な学習の時間」にユニセフ募金活動を取り上げる

東京都新宿区立落合第一小学校

研究主題 自ら学び、よりよい生活を築こうとする児童の育成

～ 「特色のある学校づくり」を目指した総合的な学習時間のあり方 ～



・総合的な学習の時間

この活動の中心は社会科・特別活動である。それに図工科や理科などが関連して取り上げられる横断的・総合的な取り組みである。その柱となるのが「社会福祉」「国際理解」である。

従来、ユニセフ活動は社会科の国際社会で平和活動に努力している国際連合の働きとして一部取り扱う内容である。しかし、本校の児童会のユニセフ募金協力活動はそれとは別の次元で取り扱われていた。そこで、社会科で学習する内容と日常の活動内容を結びつけることにより、より総合的、体験的な学習の単位として展開できると考えた。

4 具体的な方策

・主体的な活動

児童が「自ら学び」全校に関わる活動を展開することで、今まで受け身でとらえられていた募金活動が主体的な姿となる。また、募金活動の意義を全校に知らせ、全校児童の意識を高めることにより、「よりよい生活を築こうとする児童の育成」に資するものになると考えた。



1 学習・活動名

「ユニセフ活動に協力しよう」

2 学習・活動の目標

世界の子どもたちが健康で幸せな生活を送るために、ユニセフの活動や支援が必要な国々のことを調べ、ユニセフの活動に協力するために今の自分たちができることを考えて、実践しよう。

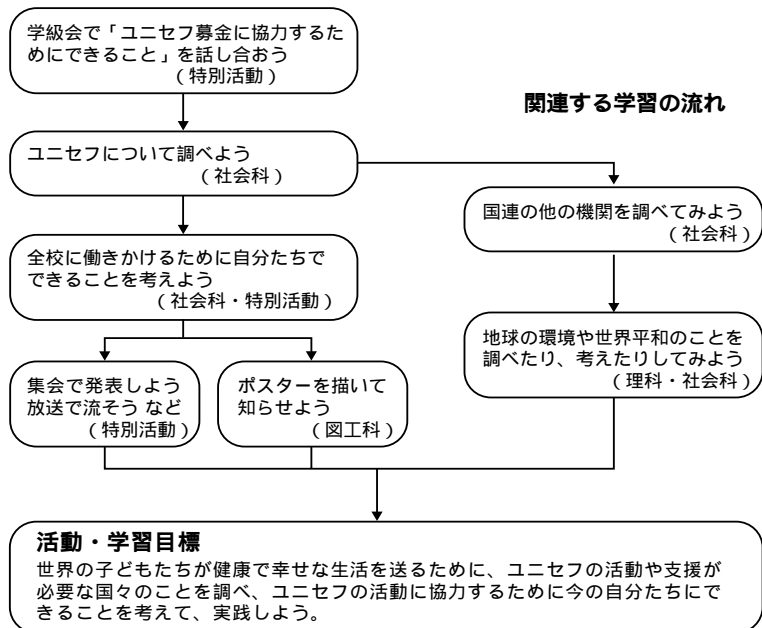
3 研究主題との関連

・特色ある学校づくり

本校は毎年、児童会を中心として全校でユニセフの募金活動に協力している。募金活動の意義については日本ユニセフ協会で作られたビデオや資料によりその活動がどのようなものかはある程度理解している。

さらにユニセフ活動の意義を理解し、実感的・共感的な立場に立つことができれば、より福祉的な立場に立って考えることのできる児童の育成を促すと考えられる。これは毎年取り組んでいるユニセフ募金活動の発展として本校の特色ある学校づくりに通じるものである。

5 学習・活動の流れ



T・NET広場に
あなたの声を

T・NET通信はみなさんの声をどんどんとりあげ、より充実した紙面にしていきたいと考えています。学校でのユニセフ活動や「開発のための教育」の実践例をぜひお送りください。